

文明構造論

京都大学大学院人間・環境学研究科
現代文明論講座 文明構造論分野 論集

Vol.1. 2005
Kyoto. Japan.

[目次]

- 001 **自由と非同一性** 藤井俊之
—アドルノのカント批判を手がかりに—
- 023 **光線としての言葉** 熊谷哲哉
—シュレーバーと自然科学と心霊学—
- 047 **ベンヤミンの「法」と「ことば」について** 小田直史
—暴力論読解の手がかりを探る—
- 069 **ヴァイマル共和国時代ベルリンにおける
映画文化(Kinokultur)と映画批評(Filmkritik)の成立** 野崎恭夫
- [001] **情熱に生きるの悲哀** 福家崇洋
—北原龍雄と『新理想主義』の普通選挙請願運動について—

「文明構造論」創刊にあたって

ここに創刊の運びとなった雑誌「文明構造論」は、もとより、京都大学大学院人間・環境学研究科・現代文明論講座・文明構造論分野の一部の大学院生諸君を中心として、日ごろの研究成果を不特定多数の見知らぬ方々に向けて発表するための場として想定されたものではあるが、その趣意は、出来上がった結果の発表というだけにとどまるものではない。たんなる業績発表の場なら、学会誌にせよ紀要類にせよ、ほかにいくらでもある。われわれが望んだのはむしろ、この雑誌をひとつの進行中のプロセスとみること、雑誌作成の過程そのものを重視し、教員もふくめて学生が一体となって、提出された諸論文に対して繰り返し徹底した議論をかわすことであった。それぞれ研究分野もテーマもきわめて多岐にわたり、悪くすれば烏合の衆にでもなりかねない院生諸君が、さしあたりは自分には無縁と思えるようなテーマにも真剣に取り組み、自分なりの見解をまとめ、忌憚ない批評を構築する。そうするなかで、烏合の衆変じて何らかの方向性をもった実験集団のごときと化し、これがまたひるがえって、個々人それぞれの研究を研ぎ澄ませ、かつそのテーマを拡大させる方向に向かう……。漠然とではあるが、われわれが望んだのは、およそそのようなことであった。むろん、今回こうしたことが実際上どこまで実現できたかどうかはいまだ保証のかぎりではないが、ただ、そのために、それぞれがそれぞれなりに、多大の努力と時間を費やしたことだけは、自信をもって請け合うことができるし、おそらくこれから毎年号を重ねることによって、願わくば、そのような色合いが、じわじわとでも鮮明さを増してくるだろうとも期待している。

雑誌のタイトルに大学院の分野名の使用をこころよく許可していただいた文明構造論の先生方に、この創刊の場を借りて改めてお礼を申し上げる。そのうち江田研究室には、心強くもありがたいことに、この雑誌の趣旨に賛同いただき、次号からの参加をすでにお約束いただいている。今後この「文明構造論」が分野の名に恥じないよう、院生諸君の切磋琢磨の証しのひとつとなってくれるよう、心より願っている次第である。

執筆者紹介（執筆順）

藤井俊之（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士前期課程）
[REDACTED]

熊谷哲哉（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程）
[REDACTED]

小田直史（京都大学大学院人間・環境学研究科 研究生）
[REDACTED]

野崎恭夫（ベルリン大学）
[REDACTED]

福家崇洋（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程）
[REDACTED]

文明構造論 第1号

編集兼発行者 京都大学大学院人間・環境学研究科 現代文明論講座

文明構造論分野 道簇泰三研究室

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町 075-753-6667

印刷所 北斗プリント社

〒606-0864 京都市左京区下鴨高木町 38-2

2005年8月5日